

たまなみ

2023 年度

第 7 回 川崎市学童軟式野球たまなみ大会



主催 川崎市少年野球連盟 学童部

後援

。

川 崎 野 球 協 会

東京新聞・東京中日スポーツ

ナガセケンコー株式会社

ローリングスジャパン LLC

● 『たまなみ』の由来と意味

『たまなみ』は、もともと川崎市少年野球連盟 学童部がその初期に発行した機関紙に採用した誌名で、連盟のシンボルのようなことばであります。

私たちの川崎市は、南北に20kmにわたってながくのびた、街の全体が多摩川の南側に沿って発展してまいりました。

市民のだれもが多摩川の南岸にあって、そのやさしい風をこよなく愛します。

すなわち『たまなみ』とは、川崎市の位置を示す”多摩川の南”の意にほかなりません。

けれども、それだけでは十分な説明になりません。

『たまなみ』の「なみ」とは“多摩川の波”とともに川崎市少年野球連盟 学童部を中心に集まった“人の波”をあらわします。

さらにこの「なみ」をもう少し注意深く広辞苑などによって掘り下げてみますと、そこには「ならんだもの」「同類」などの意味があります。

わたしたちは、川崎市少年野球連盟 学童部に集まった「同類」の波ということになります。

すなわち『たまなみ』とは、“野球の球くたま>を中心に集まった同類の友”の意をも含みます。

川崎市少年野球連盟 学童部 元副会長

岩 井 弘 記

大会要項

- 大会名称 川崎市学童軟式野球たまなみ大会
- 目的 川崎市少年野球連盟加盟チーム全体の交流を目的とした、学童軟式野球大会を開催する。
全てのチームに、他の地区との交流が出来るような野球大会を開催することで、チームおよび指導者の視野が広がることを目的とする。
- 開催方法 参加希望チームを募り、準々決勝まではそれぞれの対戦チーム同士が、試合場所、日程、時間、**審判員確保**等を調整して試合を消化し、準決勝進出チームを決定する。
準決勝から連盟で試合会場および日程を決定する。

試合会場は、1回戦は抽選番号の小さいチームが選定、2回戦は抽選番号の大きいチームが選定することを基本とし、以降小さい、大きい順とする。

準々決勝までの試合会場や日程等の運営について、各地区の川少連副事務局長は十分把握し、大会事務局と連携して試合日程の消化に努める。
- 参加資格 川崎市少年野球連盟 学童部登録チームとする。
登録するスタッフ、選手、給水係はスポーツ保険に加入のこと。
- 主将会議 日時：3月18日(土) 18時～
場所：カルッツかわさき大会議室1・2・3・4合併 (川崎区)
参加チームの監督または代表者による組合せ抽選を行う。(大人のみのお席)
- 参加費 3,000円/チーム
参加費は、各地区連盟が参加チームから徴収して、まとめて連盟に振込む。
- 申込期限 所定の出場申込書(別添)に記入して2023年2月24日(金)までに申し込む。
- 試合球 ナガセケンコーボールJ号球
準決勝の試合より、大会本部が試合毎に4個を拠出する。
ロジンはチームで準備する。
- 試合予定の報告 上記の開催方法に基づき試合予定の日程と試合場所を事前に報告する。
報告は準々決勝までは該当するチームが担当し、地区事務局へメールで連絡する。
(報告事項は試合の回戦・対戦チーム・日程・時間・試合場所)
試合予定は次の対戦相手が日程調整を容易にするためにホームページに掲載する。
- 試合結果の報告 当該勝利チームは所定の「試合結果報告書」(別添)で試合結果を各地区の川少連副事務局長に報告する。
各地区川少連副事務局長は内容確認後、次週の火曜日までに大会事務局および川少連ホームページ担当に報告する。結果はホームページに掲載する。
- 組合抽選について 同一地区チームの対戦は、1回戦に発生しないよう工夫する。
- 規則 2023年度野球規則・競技者必携、および第7回川崎市学童軟式野球たまなみ大会特別規則を適用する。
本年度の改訂規則については川少連審判部長から地区連盟審判部長に説明し適用する。
また、試合会場のグラウンドルールは試合前に当該チーム間で確認して試合を行う。
- 規定された試合ステップごとの期限までに学校行事、地区連盟行事、天候など如何なる理由が有っても、日程期限までに試合が実施できなかった場合は、棄権扱いとする。
棄権の対応は、当該チーム所属地区の評議員が責任をもって対応する。

● 日程計画 (試合ステップ)

		日程計画
抽選会議	抽選会場：カルッツかわさき大会議室1・2・3・4合併 参加チームの監督または代表者による組合せ抽選を行う。 (大人のみの出席)	3/18(土) 18:00 ~
一回戦	対戦チーム話し合いにて球場設定 審判員は当該地区審判員の協力を得る	一回戦消化を ~4/9(日)までに
二回戦	対戦チーム話し合いにて球場設定 審判員は当該地区審判員の協力を得る	二回戦消化を ~4/30(日)までに
三回戦	対戦チーム話し合いにて球場設定 審判員は当該地区審判員の協力を得る	三回戦消化を ~5/21(日)までに
四回戦	対戦チーム話し合いにて球場設定 審判員は当該地区審判員の協力を得る	四回戦消化を ~6/11(日)までに
準々決勝	対戦チーム話し合いにて球場設定 審判部の協力を得て試合運営 (準々決勝 8チーム 4試合)	7月2日(日) までに終了する
準決勝 決勝戦 表彰式	川少連にて試合会場を設定し、 審判部の協力を得て試合運営 準決勝 2試合、決勝戦、終了後表彰式 3位決定戦は行わない	7月15日(土) (予備日 7/16)

● 審判について

準々決勝までの試合は、1チーム2名の審判員を帯同する。
審判員は審判にふさわしい服装で行う。
審判員の確保は各チーム行うことを基本とする。

● 試合会場および審判員について

当該チーム同士が試合会場や審判員を確保できない場合、各地区の評議員・川少連副事務局長に相談してください。

【各地区の評議員／川少連副事務局長／川少連副審判部長】

地区	評議員名	副事務局長名	副審判部長名
川崎区	田口 清	野原 永行	栗原 和広
幸 区	川鍋 浩三	鈴木 浩輔	松村 徹
中原区	沢谷 博道	川野 巧	有田 健
高津区	飯嶋 隆博	竹内 忠彦	中郷 浩史
宮前区	佐々木 吉正	佐藤 守	小坂 幸一
多摩区	富樫 淳一	小沼 秀之	石垣 茂行
麻生区	鈴木 孝之	山本 明彦	関野 忠

各地区の川少連副事務局長は、試合消化を把握して大会運営をスムーズに進めるために自地区参加チーム及び大会事務局との積極的連携をお願いします。

● 参加チームリストの配布について

参加申込書の監督名・連絡者名・連絡携帯番号を共有するために、全チーム掲載のリストを配布します。
当該チーム間の連絡は確実に連携するため携帯電話で行うことをご了承ください。

《大会事務局：問い合わせ先》

川崎市少年野球連盟 学童部 事務局長

栗林 明

090-6493-9560

azrinmeikrz@gmail.com

第7回 川崎市学童軟式野球たまなみ大会特別規則

1. 大会適用規則

本大会は、**2023年度版 公認野球規則・2023年度版 (財)全日本軟式野球連盟の**競技者必携の中で、学童部に関する事項及び大会特別規則を適用

2. 大会特別規則

- (1) 試合は6回戦とし、試合開始の「プレイ」宣告後、1時間30分を経過したらそのイニングが最終回とする。

(注) 決められた時間が経過したら、回数に関係なく正式試合とする。

- (2) タイブレーク方式（特別延長戦）

6回を終了して同点の場合、決められた時間が経過して同点の場合はタイブレーク方式(最大2回)を行う。

タイブレーク方式は、継続打順で前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とする。0アウト一塁・二塁の状態にして、1イニング行い得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、更に継続打順を行い勝敗が決しないときは、抽選で勝敗を決定する。

- (注) 大会運営上6回が終了するか、決められた時間が経過して同点の場合はタイブレーク方式を行わず、抽選で勝敗を決定する場合もある。

(抽選) 抽選は、○×式とし、○印の多いチームを勝ちとする。

- (3) 得点差によるコールドゲーム

得点差によるコールドゲームは、3回以降10点差・4回以降7点差とする。

(決勝戦は、4回以降7点差)

- (4) 再試合

試合が5回以前に中止になった場合（ノーゲーム）、また5回が過ぎて同点で試合が中止になった場合（正式試合でタイゲーム）は、再試合を行う。

ただし、以後の試合日程から試合の勝者は、一日2試合を行うことになる。

- (5) 投球数制限

投手の投球については、肘、肩の障害防止を考慮し、1人の投手は1日70球以内を投球できる。継続して70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。ボークにもかかわらず投球したものは投球数とする。また、1日でダブルヘッダーや特別継続試合を行う場合や、タイブレークとなった場合、1日70球以内であれば引き続き投球することができる。すなわち通算で70球とする。

(注) 4年生以下の投手は60球とする。

3. 打順表と攻守の決定

- (1) その日の第1試合は、試合開始予定時間の60分前までに、第2試合以降は前の試合の2回終了時まで打順表を5通（登録された全員を記入し、必ずふりがなを付けたもの）を監督と主将が大会本部に提出し、登録名簿と照合ののち、球審立会いのもとに攻守を決定する。

攻守決定ののち、グラウンド内のブルペンで、先発投手のみ投球練習を行っても良い。

(注) 前の試合が早く終了した場合は、次の試合を試合開始予定時刻前に開始することがありますので、試合開始予定時刻30分前には球場に到着して前の試合経過に注視すること。

(注) 打順表に記載の4年生以下の選手は背番号に○印を付け提出すること。

- (2) ベンチは、組合せ番号の若いチームを一塁側とする。

試合中ベンチに入れる人員は、登録されユニフォームを着用した監督30番

コーチ29・28番、選手25名以内。チーム代表者・マネージャー・スコアラー

熱中症対策として、ビブス着用の保護者2名以内をベンチに入れることができる。

4. 使用球と用具・装具

- (1) 使用球は連盟公認のナガセケンコーボールJ号とする。
- (2) チームはユニフォーム、アンダーシャツ等は、同色、同形、同意匠の物を使用すること。(連合チームは、背番号を同色、同形、同意匠とすること)
但し、スパイクの色は自由とし、全員同色でなくても構わない。
尚、裾幅の広いストレートタイプのユニフォームズボン、監督・コーチ含めて使用を禁止する。
- (3) ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字又はローマ字による県名を必ず付けなければならない。また、他のものをつけてはならない。
- (4) バットは、金属バット、ハイコンバットは、JSBBのマークのついた公認のものを使用すること
- (5) 捕手の装具は、SGマークのついた全軟連公認のマスク・捕手用ヘルメットレガース及びファウルカップを必ず装着する事。
(女子選手は着用が望ましい)
- (6) 打者、次打者、走者、ベースコーチは、S・Gマークのついた全軟連公認で両側にイヤーフラップのついたヘルメットを着帽すること。

5. シートノックを行う場合は5分間とします。シートノックのとき、補助員としてコーチ(背番号28・29)も認める。補助員もヘルメット着用する事。
ただし、大会運営上シートノックを行わず試合を開始することがある。

6. その他の取り決め事項

- (1) ファウルボールは、一塁側のものは一塁側ベンチ、三塁側のものは三塁側ベンチ本塁後方のものは攻撃側で処理すること。
- (2) 攻守交代の時には、ボールを必ず投手板近くに置いて交代をすること。
- (3) ベンチ内での電子機器類(携帯電話・パソコン等)、携帯マイクの使用を禁止する
メガホンは、ベンチ内に1個に限り許可する。

7. 試合のスピード化に関する事項

- (1) 攻守交代はかけ足で行い、第三アウトが成立したら、プレーヤーは速やかにベンチを離れて、守備位置に向かうこと
- (2) 守備側のタイムの回数制限について
捕手を含む内野手が、投手のもとへ行ける回数は、3回以内とする。
タイブレーク方式となった場合は、2イニングに1回行くことができる。
往復を駆け足で行いプレイの開始を遅らせてはならない。
- (3) 攻撃側のタイムの制限について、
攻撃側のタイムは、3回以内とし、タイブレーク方式の場合は、2イニングに1回とする。
- (4) 投手の塁への送球
離塁していない塁への送球は遅延行為でボークになる。また無用と思われる塁への送球が度を過ぎると審判員が判断したら、反則行為とみなされる。
- (5) **サングラスは、大会本部の承認なしに使用することができる。
但し投手の着用、帽子にサングラスに乗せる事は禁止とする。**
- (6) ネクストバッタースサークルでは、次打者はスタンディングで待つが良いがバットを振ってはならない。